

令和5年4月定例会会議録

(令和5年4月25日)

八代市教育委員会

八代市教育委員会 4 月定例会会議録

- 【開催日】 令和5年4月25日（火）
- 【場所】 八代市役所本庁4階 403会議室
- 【出席者】 北岡 博 教育長
渡邊 裕一 教育委員
奥村 留美子 教育委員
早田 蛭 教育委員
澤村 互寛 教育委員
- 【出席職員】 中 勇二 教育部長
松川 由美 教育部次長
田中 智樹 教育部次長
下津 恵美 教育政策課長
田北 佳一郎 学校教育課長
稲本 健一 教育部理事兼教育施設課長
高崎 博文 生涯学習課長
櫻井 幸枝 教育サポートセンター所長
上角 愛美子 博物館未来の森ミュージアム副館長
松本 豊 教育政策課長補佐
陣内 敬貴 教育政策課指導主事
- 【事務局】 萩本 誠子 教育政策課教育政策係長
浦本 美代子 教育政策課参事

（審議事項）

<議案案件>

- ① 八市教委議第9号 八代市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について
- ② 八市教委議第10号 八代市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について

<報告案件>

- ① 報告第8号 令和5年度教育部組織目標について
- ② 報告第9号 臨時代理報告・八代市教育委員会職員の人事異動について
- ③ 報告第10号 八代市立博物館未来の森ミュージアム保全管理計画（個別施設計画）の策定について
- ④ 報告第11号 八代市立博物館未来の森ミュージアム大規模改修工事について

1. 開会 (午後3時28分 開会)

2. 会議録の承認 令和5年1月定例会

3. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告

4. 議題

〈八市教委議第9号〉 八代市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について

田北学校教育課長 現在委嘱している八代市いじめ防止等対策委員会委員の異動に伴い、補欠委員を委嘱する。

質問等なし

【八市教委議第9号 承認】

〈八市教委議第10号〉 八代市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について

田北学校教育課長 現在委嘱している八代市いじめ問題対策連絡協議会委員の異動に伴い、補欠委員を委嘱する。

渡邊教育委員 これまで主にどのような内容が議論されてきたのか。

田北学校教育課長 基本的には、年度ごとに八代市でどのような事案が発生したのか情報を提供し、それについて意見を求めている。昨年度は大きく取り上げ、審議をする事案はなかった。いじめ防止について積極的に意見交換をし、今後取り組むべきことの共通理解を図る場である。いじめ防止等対策委員会は、実際に起きた場合に重きを置いているが、対策連絡協議会については、起きないためにはどうしたらよいかを協議する場である。

奥村教育委員 今の2つの件について、異動前の名簿をいただきたい。

【八市教委議第10号 承認】

〈報告第8号〉 令和5年度教育部組織目標について

中教育部長 資料により説明

組織目標は、第2次八代市総合計画後期基本計画、第3期八代市教育振興基本計画に基づき、重点施策等を着実に実行することで、次代を担う子供の育成と社会全体の教育力の向上並びに充実した生涯学習環境の提供を目指すとしている。

重点施策は、次の5つの目標を設定している。

目標1 将来を見据えた学校・幼稚園の適正配置へ向けた再

編の推進

目標 2 子どもたち一人一人の生きる力の育成

目標 3 安全・安心で快適な教育環境の提供

目標 4 学校・家庭・地域の協働による社会全体の教育力の向上

目標 5 生涯を通じた学びの場の提供

これらの5つの目標を設定し、市長・副市長・教育長に確認をいただいている。

奥村教育委員

説明と資料から、心惹かれた点が2点あった。

1点目は、不登校問題は地域社会の問題として考えていくという点である。一昨年の総合教育会議の中で市長とともに不登校問題を捉えたとき、キーワードとして位置づけられたのではないかと思う。これが今後も進んでいくようにと思う。

2点目は、学力向上に向けた取組を、年間でのPDCAサイクルとすることである。かつての資料で、4月の全学調と11月のゆうチャレンジで年間の評価体制が2分割されたPDCAサイクルを目にしたことがある。これは、大きな評価問題に向けたPDCAサイクルにはなるが、学校の営みとしては、1年間かけて子供の学びを育てるので、大きな評価問題に向けた学力向上の取組であり、これを含んだうえでの年間PDCAサイクルとすべきではないかと尋ねたことがあった。八代市の場合は、年間でのPDCAサイクルと明記してあるのがとても心強いと思った。その根底にあるのは、大きな評価問題だけで子供の力、教員の指導力を捉えることなく、取組の総称が1年間の子供たちの学び、育ちとして捉えていこうという一番大事な発信になるのではないかと、心強く思った。

次にお尋ねしたい。昨年度、教育行政視察で学校規模適正化に向けた取組について、豊前市で学んできた。八代市の方角性としては、全市的に適正化を検討するのだろうか。豊前市は八代市より規模が小さいので、全市的な取組であったと思う。全市的に適正化を図るのか、児童生徒の数が極端に減少しているため、そのような具体的な地区だけを対象とするのか、大きな方針から今年度の教育委員会からスタートするのだろうか。

中教育部長

適正化については、市全体とするのか、具体的な地区だけをするのかといったところから教育委員会の中で議論をしていきたいと考えている。問題がある地区だけしていこうというのは無理であると思う。豊前市のように市全体としてのビジョンを示す必要があるのではないかと思う。本市は広いため、通学についても距離があるので、本市の置かれた現状を

考え、どのようなことをしなければならないのか議論していきたいと思う。中・長期としているが、長いスパンで考えていきたい。

奥村教育委員

いじめ不登校問題の中で市やゆうチャレンジで活用する i - c h e c k については、有効活用できたらと思う。前任の教育委員が検査結果について言われていた。我が子が人間関係の構築が難しいという内容の結果をもらった。中学校に上がったばかりであるし、のんきな性格なので検査にうまく答えられない部分もあったのではないかなと思う。こんなに早くから、人間関係を構築するのが難しいというような結果で決めつけられるのはどうなんだろうかとお尋ねがあった。このように結果が独り歩きしないように、担任の先生が結果の説明や、検査の内容について保護者と少しでもやり取りがあると、保護者は安心されるのではないかなと思う。学校はとても忙しくなっているが、結果がどのような形で本人や家庭に届いてるのだろうか。親御さんに理解してもらって、家庭支援、家庭学習充実につなげていかなければならないと思う。結果の独り歩きを防ぐためにも、行ったものを丁寧に本人、家庭、担任の先生が共有できるような体制に配慮いただきたいと思う。早くから人格の決めつけにつながらないようにしていただきたいと思う。

早田教育委員

我が家でも i - c h e c k の結果が置いてあった。この結果をもらってどうしたらよいか分からず、放置してしまった。結果だけ見ると人格を決めつけられたように感じるが、先生からのフォローなどがあると良いのではないかなと思う。

奥村教育委員

学校にあまりにも丁寧な対応を求めて、働き方改革に反するという言葉が出てくると、この場で議論するのが申し訳なく思うが、決してこうしなさいと求めているのではなく、なんとか配慮しましょう、工夫しましょうということである。究極の目標は、子供に生きる力を付けるということであるので、配慮が必要な部分だけでも伝わると、親御さんも担任の先生も安心されるのではないかなと思う。

中教育部長

まさに発信力、伝え方ではないかなと思う。予算を確保し、検査をした、i - c h e c k をしたということだけでは何も変わらない。それを基に、これはどういうものだからこう見てくださいますとか、このように活用してくださいとか、そういったことを学校から保護者、本人に伝えていくことで初めて効果が出てくるものである。結果を渡すときにも見方や注意点がしっかり伝わるように、PTAの集まりや家庭訪問などの機会を使って説明するなど、検査を受けただけでは何

も解決しないので、そういった点も教育委員会も学校もしっかり考えていきたい。

渡邊教育委員

今年度、大変重要で大きな課題ばかりが目標として取り上げてあり、大変な1年になるのではないかと思う。特に学校規模適正化を一番目のテーマとして設定しており、重点施策の文言にもあるように再編の推進という形で表してある。これまで適正化の第一次計画では、複式解消、いわゆる拠り所としての適正規模を論議してきたと思うが、再編の推進と表現してあるのでこの辺りがキーワードとなって、考え方の中核となるのかなと感じたところである。令和6年度には担当部署を設置し専任の職員の配置が望まれるとあるが、これについては早い段階からぜひ実現できるように、専任の職員の配置が求められると思っているところである。しっかりサポートしていきたいと思う。

博物館関係でお尋ねであるが、26,000点の整理移転とういことで、大変な作業になるかと思う。適正な保管が求められると思うが、どのような作業になるのか。

上角博物館未来の森ミュージアム副館長

移転計画はこれから作成するところであるが、物によって、外に出せない物、空気環境、湿度、温度の配慮が必要な物もあれば、建物の中に置いておけば良い物もあるので、博物館の中または支所の会議室、重要な物は県立美術館に預かっていただくことを考えている。

澤村教育委員

3点質問したい。1点目は学力充実へ向けた取組の推進の中で、英検3級程度以上の取得率の向上とあるが、現在の取得率や具体的な目標はあるのだろうか。2点目は、いじめ不登校対策の件で、教育委員会の取組を保護者・地域住民への周知・啓発を推進するという点は、非常に大事なことであると考えている。具体的に、周知・啓発の方法はどのように考えているのか。

櫻井教育サポートセンター所長

2月の先進地視察研修で訪問された北九州市の例を見せていただいた。また、他自治体の例も参考に調べていたところ、3月31日付けで文部科学省からCOCOLOプランというものが発出され、本市で行っている不登校対策の取組を照らしてみた。ほぼ本市で行っている内容であったため、それを柱立てして素案を作成しているところである。周知については、まずはリーフレットを作成し、連絡先やメールアドレス、本市での取組等を周知したい。全家庭への配布は難しいので、回覧板やホームページ、エフエムやつしろ等での周知を考えている。現在、不登校の家庭が悩まれている1つが不登校への無理解である。子供のことで大変な思いをされて

いるのに、世間の目が加わり板挟みになって悩まれている保護者の方を日々見ているので、不登校はどういうものなのかということもリーフレットに掲載し周知・啓発をしていきたい。

澤村教育委員

地域の方と話していると、いじめ、不登校に対する偏見を持つ方もいらっしゃると思う。啓発の仕方は難しいと思うが、北九州市のリーフレットは大変分かりやすかった。字数が多いとあまり見ないので、簡単で分かりやすく納得するようなものがあるとよいと思う。

3点目の質問であるが、リカレント教育の推進について、誰一人取り残さないデジタル社会の実現に向けた学習活動については、自分自身もデジタル社会に取り残されて不利益を被るのではないかと感じることである。このような講座にどのような人が、どのくらい参加されているのか。

高崎生涯学習課長

かんたんスマホ講座、ITキャリアアップ講座、はじめてのスマホ講座については、各校区のコミセンで行っている講座と八代市公民館で行っている講座がある。定員は1講座20名程度である。スマホ関係は非常に人気があり、受講者が多い。年齢的には現役を退かれた方が多い。IT関係については、仕事に役立てたい、自分のスキルアップのためにと受講される方もいる。IT関係は夜間に、スマホ関係は昼間に行っていることもあり、スマホ関係講座の受講については現役世代が少ない。参加人数についての資料は準備していない。

澤村教育委員

活用はかなり多いということだろうか。

高崎生涯学習課長

そうである。

奥村教育委員

いじめ問題について、いじめは絶対になくならないものである、心理学的見地から人の本能である、と言われる学者もいらっしゃる。しかし、教育関係では絶対にゼロにしよう、子供の辛い姿を見たくないと取り組んでいる。社会全体が二極の立場で考えたり取り組んだりしていると思う。どちらにしても、いじめが起こる状態のときに周りの人たちがいるので、私たちは防止対策、法令の整備を充実させることが大事であると思うが、その前に、日常生活で人はどう思っているだろうか、目線の送り方など、ちょっとしたいじりが大きくなったりする。そういったことも含めて学校、先生たちは指導され、親御さんたちと共有しているところがある。人の心から起こるものであって、起こったことを見ている目が結構多いということを含めて、大人の問題であるのかなと思っ

た。

組織目標の冒頭に、部長がこれは市の政策として掲げた目標である、とおっしゃったが、教育関係についての中身は全部、学校に教室に1つずつ入っていくものなので、政策だけではない部分で心に留めたい部分があった。これが学校や教室の1つ1つに実現していくとよいと思う。

瀧川学校教育課指導主事

英検について、昨年度の中学3年生のCEFR A1（英検3級相当）以上を取得した生徒は、本市においては972人中194人であり約20%という現状である。熊本県が今年度までに40%を目標としているため、その40%を目指している。英検3級レベル以上を取得している生徒の他の調査において、そのレベル以上の英語力を有すると思われる生徒が112人計上されている。力を持っているのに受検をしていない。英語担当の先生も受検を勧められるが、なかなかそこに向かない状況である。この生徒が受検すると、30%に達するという計算になる。受検の機会をどう作るかということで、昨年度、教育事務所の指導主事と受検率の高い学校を訪問し、どのような取組をされているのか伺った。多かったのは、個別の声かけ、中学校1年生時から受検させる習慣をつけさせている、保護者への確実な補助の周知、この3点が共通していると思われたため、先日、教育事務所の校長会でもこの点については資料が配付された。1学期も教育事務所の指導主事と回ってお願いしたい。力を持っている生徒が受検すると確実に取得率は上がると思う。また、今年度の予算要求時に、全額補助を目指し、全員が受検する体制を作ることが取得率を上げる鍵となり、先生の負担も軽減できるのではないかと思う。

澤村教育委員

予算が付くことなので、結果が求められるのではないかと思いお尋ねしたところである。全額補助となると、保護者の考えも変わるだろうし、先生たちの意欲も上がるのではないか。取得率を上げるためには、予算もだが英語の学力向上が一番であると思うので、先生たちの意欲を上げるためにも予算が確保できるとよいと思う。

奥村教育委員

英検3級は、どの程度のレベルなのだろうか。これを取得することで、子供たちはどのような喜びがあるのだろうか。英語の授業を頑張ったら英検3級が取れて良かったと思えるような日頃の授業との循環がないと、先生たちにとってもプレッシャーになるのではないか。

瀧川学校教育課指導主事

英検3級は、日常会話には困らないレベルと言われる。難しい文法は使わないので、海外旅行で会話には困らない程度

である。準2級とはだいぶ隔たりがあり、3級までは努力をすれば取得できるレベルである。英語が使えるレベルであるがそんなに難しくはない。

英検と授業とのリンクについては、英検は本来、英語力がどれだけ付いたのかを測るための指標となるものであるため、英検を取得するために英語を勉強するということにはならないよう、あくまでも英語力がどれだけ付いたかのアセスメントとして活用できればと思う。英検に合格することで自信が付くというのは間違いないことなので、そういう意味でも英検の受検を勧めていきたい。

北岡教育長

3級以上の力があると思われる生徒が受検していない、勧めるが受検しないという理由は何が考えられるか。

瀧川学校教育課指導主事

1学期の受検が伸びない理由は、中体連、部活動が大きな壁となっているのではないかと思われる。受検前に先生たちに勧められるが、受検しないというのは、英語はできるがそこまで好きではない、興味がない、魅力を感じないということがあるのではないか。一つ鍵を握っているのは、保護者への周知であると思う。聞き取りをしたときに、保護者への周知が徹底できている学校は受検率が高い。保護者からの声かけが受検のきっかけになる。先生たちの声かけ、受検後の事務処理は先生たちの負担となっている実情があるので、どうか全額補助を進めて、声かけ、事務処理の負担軽減となれば良いと思う。

早田教育委員

組織目標については、大きく重要な内容ばかりで担当課においては大変なのではないかと思いつつ見たところである。不登校の適応教室が千丁支所に設置され、保護者として、子供が学校に行けなくなったときの選択肢があることは大変ありがたいことだと思う。自分自身も高校生のときに、朝起きることができなくて学校に通えない時期があった。通っていた塾からいつでも来ていいと言われており、朝、昼、夜、自分が行きたいときに行くことができたので、それがきっかけで学校に行けるようになった。行きたいと思ったときに気軽に行ける、選択肢があるということは、安心につながると思った。チラシを全戸に配布するのは難しいとのことであるが、やはり保護者の理解、地域の理解は大事であると思う。保護者も悩むし、周りからなんで学校に行かないのかと言われると、保護者のプレッシャーになり、子供への声かけにも影響すると思う。みんなが理解していくことが大事であると思う。北九州市のリーフレットは大変良くて、周りの保護者にも紹介したところである。市報などで広報ができ、市全体に広がっていくとよいと思う。

給食センターやプール再編などの大きな事業により、八代市も変わっていくのだと感じたが、防災教育について含まれていると良かったと思う。防災はいろいろなところに関連しており、給食センターを建設するのであれば、八代市が抱える災害リスクの防災としても使えるような機能として、一時的に避難所に利用できるといったことが含まれるとよいと思う。地域の特性があり、坂本町の令和2年7月豪雨の際には、救助された方が坂本中学校に来られ、何も無い中、3日間過ごされている。炊き出しをするのに食べる物がないということで、学校の給食室の食材を使って、炊き出しをされたと言われていた。学校に置いてあるものを使いながら3日間過ごされている。山間部は災害と隣り合わせであるし、防災の拠点として学校は利用されると思うので、人が少なくなっているから給食センターをまとめるということではなく、地域の特性に応じた対応をお願いしたい。もし、令和2年7月豪雨のときに給食室がなかったらと考えるととても怖い。防災教育についての一番の課題は、学校での取組にとっても格差があることである。昨年度は県からの依頼で取り組んだが、今年度はどうなるか分からない。昨年度、取り組んだ学校からは今年度もお願いしたいと依頼がある。無料であれば良いのだが、そのような学校が増えた場合に、対応が難しくなる。したいけどできないというのが、一番良くないと思うので、防災教育の土台作りを少しずつ進めていただけたらありがたい。

中教育部長

防災教育は、昨年度は項目として入っていたが、今年度は入っていない。昨年度はマイタイムラインを作成するという項目であった。防災教育については、教育委員会としても検討しなければならないと思う。部としての目標に入れることはできなかったが、課の目標として、将来のいろいろな検討も含めてお願いしたいと思う。

早田教育委員

プールの再編については、プールの水は地域の防火用水、災害時の生活用水として使用されるが、プールがなくなった場合、そういった使用ができないのが心配される。

〈報告第9号〉 臨時代理報告・八代市教育委員会職員の人事異動について

下津教育政策課長

臨時代理報告・八代市教育委員会職員の人事異動について
資料により説明

質問等なし

北岡教育長

報告第10号 八代市立博物館未来の森ミュージアム保全

管理計画（個別施設計画）の策定について、報告第11号八代市立博物館未来の森ミュージアム大規模改修工事については関連があるため、続けて説明をお願いしたい。

〈報告第10号〉 八代市立博物館未来の森ミュージアム保全管理計画（個別施設計画）の策定について

〈報告第11号〉 八代市立博物館未来の森ミュージアム大規模改修工事について

上角博物館未来の森ミュージアム副館長 資料により説明
●八代市立博物館未来の森ミュージアム保全管理計画（個別施設計画）
●八代市立博物館未来の森ミュージアム大規模改修工事について

澤村教育委員 改修中は長期間、閉館をするのだろうか。

上角博物館未来の森ミュージアム副館長 改修中は閉館することとなる。令和6年度、7年度を予定している。

北岡教育長 貸館について、いろいろな文化団体に貸出をしているため、閉館中は市民の方々にご不便をかけることになるが、その説明は今から行うのか。

上角博物館未来の森ミュージアム副館長 今からになる。説明のタイミングについてもこれから検討し、適切に対応したい。

北岡教育長 丁寧に説明をしていただきたい。各団体の活動が停滞しないよう、丁寧に進めていただきたい。

4. 連絡事項 学校教育課 校長会との連携について
教育サポートセンター 教育サポートセンター事業の概要について
博物館 春の展覧会について、5/5 観覧無料について
事務局 5月定例会日程確認（5/20 14:00～）

5. 会議録署名委員の指名 渡邊委員・奥村委員

6. 閉会 （午後5時30分 閉会）

令和 年 月 日

署名委員

記録者
